

庄原市立山内小学校 第3学年 図画工作科学習指導案

題材名：みんなの山内 ～みらい☆マイタウン～

日時 平成30年11月15日(木) 2校時(9:45～10:30)
 場所 図工室
 学年 第3学年(男子4名, 女子11名, 計15名)

題材について

本題材は、小学校指導要領図画工作(平成29年)第3学年及び第4学年の内容 A表現及びB鑑賞を受け、特にA表現(1)「イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。」に重点をおいて設定した。この事項は、発想や構想に関する事項のうち、絵や立体、工作に表す活動を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」について示している。

この題材は、児童が大好きな山内町に、あったらいいなと思う建物を粘土の特性を生かしてつくる。粘土は、用具を活用することで様々な形に変形しやすいことや、面と面を合わせると接合できる特性を生かし、自分の思いを込めた建物を、試行錯誤しながらつくり進めることができると考える。既習の体験を生かして、自分が表したい建物のイメージを、粘土の形を変えながら表現していくことができると考える。また、個人でつくった作品を友人の作品と組み合わせ、協力して「みんなの山内～みらい☆マイタウン～」をつくる活動を行う。

児童の実態について

先日、行った児童実態調査では、次のような実態が明らかとなった。調査項目は次の通りである。

(15人中)

質問項目	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
(1) 図画工作科で表現することが好きである。	10人	5人	0人	0人
(2) これまでに見つけた表し方を作品づくりに生かすことができる。	10人	5人	0人	0人
(3) 友人の作品を見て、よい所や工夫している所を見付けることができる。	13人	2人	0人	0人

アンケートの結果から、本学級の児童は、図画工作科の時間をとても楽しみにしていることが分かる。1学期に図画工作科で行った「でてこい でてこい ふしぎな形」の学習では、切り糸やかきべらなどを使って、粘土のかたまりから一部を起こすなどしてできた形から、更に想像を膨らませ、不思議な形をつくり出した。切り糸やかきべらなど、既習の表現方法を自分で選択し、楽しみながら作品を仕上げることができた。用具を使うことで、今までできなかった表現方法に出会い、同じ用具でも使い方(押し付ける、上に引っ張る等)によって、表し方に違いがあることにも気付くことができた。しかし、自分の作品に自信がもてず、まだ作品を展示することに躊躇する児童もいる。

そこで、これまでも作品を鑑賞する時間を設定してきた。自分の作品で表現を工夫した所や頑張った所を付箋に書き、グループ交流することでそれらを基に思い付いたことや感じたことについて交流を進めることができた。また、交流の際に、友人の作品の穴をのぞき込んだり、かきべらの使い方を試したりしながら、作品のよさや表現の工夫についてグループで共有することができた。これらの交流を通して、自分では気が付かなかった自分や友人の作品のよさや表現の工夫を感じ取り、自信をもつことができ、「次は、これを試してみたいな。」「〇〇さんのやり方を真似してみたいな。」と、次の活動への意欲につなげることができた。しかし、鑑賞の視点を示しても、全員が友人の作品のよさや表現の工夫を見付けることは難しい児童もいる。

指導にあたって

指導にあたって留意することは、大会テーマに沿って以下のように示す。

心動かし

題材の導入では、大好きな山内町の未来を想像し、つくってみたい建物をイメージするために「山内みらい☆マイタウン」構想図をかく活動を取り入れる。児童は、これまでの生活経験から、山内には建物は少ないが、山や田畑など自然いっぱいの地域であることを感じ取ることができているため、どんな建物があったらよいか一人一人が意欲をもって取り組めると考える。そこで、未来の山内には、「こんな建物があったら、楽しいだろうな。」「この建物でこんなことをしてみたいな。」など、自分が好きな物や得意なことからイメージを膨らませ、自分の思いを大切にしながら、建物をつくらせる。発想に困った児童に対しての支援の資料として、特徴的な建物や美しい街並みなどの写真を準備しておき、教室に掲示しておくことで、更に想像が膨らみ自分の思いが詰まった建物にさせる。

対話し

つくる活動では、掲示物や「のびのびタイム」を使って既習の表現方法を想起させ、それらを使ったら素敵な建物ができるということを確認し、活動に入る。粘土は、大量に用意しておき、児童が作りたものに合わせて必要な量だけ使うようにさせる。思いを形に表していく過程を大切に、既習の表現方法や用具を自由に選択させ、粘土に触れる中で見つけた形の面白さを味わわせる。

本時は、個人でつくった建物を紹介させ、鑑賞の場を設定する。できた建物を友人と一緒に鑑賞することで、作品のよさ（形の面白さや表現の工夫等）を感じ取らせる。その作品のよさや、用具を使って表現した結果作品に表れている部分など、交流することでいろいろな見方や考え方を深めていく。グループ交流では、作品のよさを認め合いながら、見つけたことをホワイトボードに書かせ、全体交流をする。その後、出た意見を基にグループで自分達の作品をつなぐための話し合いを行い、次の活動につなげていく。

価値を知る

鑑賞後の活動として、グループで作品をつなぎ、一つの町をつくる。自分や友人の作品のよさを生かせるように、何処にどのような向きで置くか、配置やバランスを考えたり、できた町に合う物を付け加えたりさせる。その際に、どのように感じたのか、どうしてそう思ったのかなどの根拠や理由を形や場所などを基に話すようにさせる。話し合いと活動を通して、友人と心と力を合わせ、一つの町をつくり上げたという達成感と、一人ではできない共同制作のよさを味わわせたい。

でき上がった「山内みらい☆マイタウン」は、作品紹介カードと一緒に地域にある山内自治振興センターに置いていただく予定である。作品紹介カードには、作品のタイトルや工夫した所なども書き、地域の方々に見ていただき、児童が未来の山内について考えたことを知ってもらおうきっかけとしたい。

題材の目標と評価規準

<題材の目標>

- (ア) 自分達が住んでみたい未来の町づくりに興味をもち、粘土で表現することを楽しもうとすることができる。
- (イ) 粘土の形を組み合わせながら、どんな建物にしたいか思いや考えを広げることができる。
- (ウ) 材料の特性を生かしたり用具や技法を選んだりして、工夫して表現することができる。
- (エ) 自分や友人の作品を見合い、形の面白さや建物の工夫を感じ取ることができる。

<評価規準>

ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
既習の表現方法を使って、粘土の形を組み合わせることを楽しもうとしている。	① 組み合わせでできた粘土の形を生かして、建物のイメージを膨らませている。 ② できた形のよさを生かして、建物の配置を考えている。	自分のつくりたい建物を、材料の特徴や用具、技法を生かしながら、工夫して表現している。	粘土の特徴や技法を生かした発想や形の面白さを感じ取り、お互いの作品のよさを認め合っている。

指導と評価の計画

(全8時間)

次	学習内容(時数)	評 価						
		関	発	技	鑑	評 価 規 準	評価方法	
一	○ 未来の山内にあったらいいなと思う建物をイメージする。 ○ 既習の表現方法を使って、その形から想像を広げ、建物作りに興味をもつ。(1時間)	○	◎			イ 建物の構想図を考えながら、表したい建物を具体的に想像している。	行動観察 構想図	
						ア 粘土を切ったり、かき出したりした形を組み合わせることを楽しもうとしている。	発言 行動観察	
二	○ 粘土を切り取ったりかき出したり、組み合わせたりして、自分の思いを大切にしたい建物をつくる。(3時間)	○				ア 既習の表現を試しながら、できた形を組み合わせることを楽しもうとしている。	行動観察 振り返りカード	
						イ 多様な表現方法でできた粘土の形を生かして、山内にどんな建物があったらいいか、思いや考えを広げている。	作品 行動観察	
	○ 自分のつくりたい物を、材料の特徴や技法を生かしながら、工夫して表現している。			○	ウ	行動観察 振り返りカード		
	○ できた建物のよい所や工夫した所などをグループで交流し合い、よさが生かせる配置について考える。(1時間) 《本時5/8》		◎			○	エ 粘土の特徴や技法を生かした発想や表し方を感じ、自分や友人の作品のよさを認め合っている。	交流中の発言 行動観察
			◎			イ	できた作品のよさを生かして、根拠や理由を基に建物の配置を考えている。	行動観察 配置の様子
三	○ 交流したことを基に、協力して町をつくる。(2時間)	○				イ 自分たちの思いに合った町にするため、どんな物が必要か考えている。	行動観察 発言	
						ウ 表したい町をよりよくするために、材料の特徴や技法を生かしながら、工夫して表現している。	行動観察 作品	
	○ 協力してつくった町のよい所や工夫した所などを全体で交流し合う。(1時間)			◎		○	エ できた建物や町の様子について交流し、他のグループの作品のよい所や工夫した所を認め合っている。	行動観察 発言 振り返りカード

本時の学習

(1) 本時の目標

自分や友人の作品を交流し、作品の造形的なよさや面白さに気付き、そのよさを生かして建物の配置を考えることができる。

(2) 本時の評価規準

粘土の特徴や技法を生かした発想や表し方を感じ、自分や友人の作品のよさを認め合っている。

(鑑賞の能力)

形や場所などを根拠にして、できた作品のよさを生かし、建物の配置を考えている。

(発想や構想の能力)

(3) 準備物

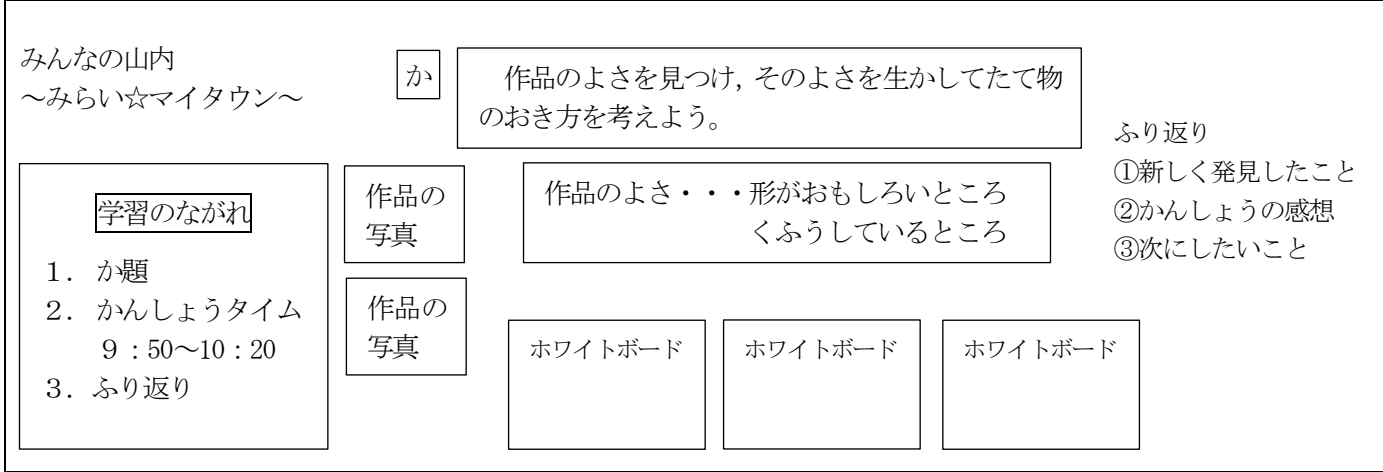
児童の作品、前時までの活動写真、作品の写真（2枚程度）、振り返りカード、ホワイトボードマーカー、ホワイトボード

(4) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項 発問等 ◆：支援が必要な児童への手立て	評価規準 〔評価方法〕
1 導入		
○ 前時の学習を想起する。 ○ 「誰の作品でしょうクイズ」をする。	・学習リーダーを中心に、前時の学習内容を振り返る。 ・作品をクローズアップした写真を見せ、誰の作品かを考えさせることで、本時の活動に興味をもたせる。	
2 課題の設定		
○ 本時の課題を確認する。 ○ 授業の流れを確認する。	形の面白い所や工夫している所について話し合おう。 作品のよさを見付け、そのよさを生かして建物の置き方を考えよう。 ・作品のよさとは、形の面白い所や表現を工夫している所だということをおさえる。 ・活動の見通しを持たせるために、授業の流れと活動時間を提示する。	
3 活動		
○ 友人の作品を鑑賞し、グループで交流をする。 ○ グループで交流したことを基に全体交流をする。 ○ 鑑賞を基に、作品のよい所や工夫している所を生かした建物の配置を考える。	・友人や自分の作品を多角度から鑑賞させることで、よさをしっかり見付け、グループ交流する。 ◆友人の作品のよさが見付けにくい児童には、用具の使い方などに着目するように助言する。 ・全体で共有しやすくするために、グループ内で出た感想や意見を、ホワイトボードに書かせる。 ・多様な感じ方や考え方があることを認め合うために、机間指導で肯定的な評価を行い、児童の発言を価値付ける。 児童に気付かせたい表現のよさ ・前に使ったかきべらをいろんな方向からひっぱって、面白い形ができています。 ・今までに学習した表現方法を、自分で選んで使い、表し方を工夫している。 ・数名の児童の作品を取り上げ、「なぜ、そうしたのか。」「そうしたことで、どう変わったのか。」などの繰り返し発問を行い、作品のよさを感じ取らせる。 みんなの建物をどこに、どのように置いたらいいだろう。 ・お互いの作品のよい所や工夫している所がよく見えるようにするためには、どのように置けばよいか、グループで考えさせる。 ◆話し合いがうまくいかないグループには、ホワイトボードを見ながら、それぞれの作品のよさを再度確認し、誰の作品をどのように置けば、自分達の思いがこもった町になるかを考えさせる。	粘土の特徴や技法を生かした発想や表し方を感じ、自分や友人の作品のよさを認め合っている。 〔交流中の発言・行動観察〕 形や場所などを根拠にして、できた作品のよさを生かし、建物の配置を考えている。 〔作品の配置・行動観察〕

4 振り返り		
○ 本時の学習を振り返る。	・振り返りの視点を示し、振り返りカードに書かせる。	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>【児童の振り返りの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇くんの作品を見て、窓の形の面白さに気付くことができたけど、他の友達の意見を聞いて、形の面白さだけでなく、形が揃っているから効果的だということが分かってよかったです。 ・〇〇さんがかきべらをいろんな方向から使って面白い形をつくっていたので、建物を□□に置いたらいいか、みんなで考えることができました。 ・みんなの建物を置いてみたら、周りに川があった方が町らしくなるという話になったので、次の時間につくりたいです。 </div>		
5 まとめ		
○ 本時の学習活動の価値を知る。	・本時で作品のよさを見付け、そのよさを生かして建物の配置を考えていたことを振り返らせ、肯定的な評価を行い、児童に達成感をもたせる。	

板書計画



場の設定

